

月舘町に伝わるむかし話

小手七ツ森の最高峰女神山は、標高599メートル。眺望はすばらしく、伝説の数多い信仰の山です。機織りの神様小手姫の伝説は特に有名で、広く語り伝えられています。

小手姫伝説

ずーっとむかし、およそ千四百年も前のお話です。時の都・大和朝廷に、小手姫というたいそう美しいお姫様がいました。小手姫はやがて、崇峻天皇の妃になりましたが、権力争いにまきこまれた崇峻天皇は、蘇我馬子に暗殺されてしまいます。息子の蜂子王子は、東国（今の福島以北）で、新しい国を造ろうと決意し、母・小手姫に別れを告げました。見知らぬ国へ旅立つ蜂子王子に小手姫は、いつの日か必ず東国へいくと約束しました。崇峻天皇の喪があげると、小手姫は娘・錦代皇女、父・大伴糠手とともに、東国へ出発しました。都（今の奈良）から常陸国（今の茨城）までは船で、そこから久慈川ぞいに陸

路を北へ進

む、長く辛い旅でした。

女神山の山頂で小手姫は、しばらくここにとどまり、蜂子王子の消息をたずねようと心に決めます。小手姫は、都で習った機織りの技術を村人たちに教えました。幸いこのあたりは山桑が多く蚕もよく育つのです。村はだんだん豊かになっていきましたが、小手姫は蜂子王子に再会できぬまま、その生涯を終えました。

小手姫は女神山に、そして蜂子王子は出羽三山にまつられ、生き別れとなった悲しい母子の話は今も人々に語り伝えられています。

